



全国の強さと向き合って

将棋部 窪田 宙

昨年に引き続き、今年も全国高校総合文化祭に参加することができました。団体戦で出場しましたが、最初の2戦は惜しくも負けてしまいました。それでも、自分の実力を最後まで出し切ろうと3戦目、4戦目にも全力で臨み、2勝することができました。決勝トーナメントには進出できませんでしたが、昨年からの成長を実感することができました。また、チーム全員で力を尽くして指し、納得がいく結果で終わることができたのは喜ぶべきことだと思います。将棋部を引退した後も、この貴重な経験を生かしていきたいと思えます。



各県代表の作品に感動

美術部 石井 沙英



かごしま総文への参加で特に参考になったのは、各県代表作品をグループで見回った作品鑑賞会です。高い描写力と発想力、エネルギーに圧倒されました。印象に残った作品は、自分の周囲の出来事は妖怪の作業であるとして描いた精神性がテーマの作品です。弱い光を通した霧がかかる空気感や妖怪たちの中にたずむ作者の頼りなげな様子が荒々しいタッチで描かれていました。その情景が激動する世情に戸惑う我々と重なり、鑑賞者を引きつける魅力を感じました。また作者との交流で制作過程や発想の起点となる部分について聞くことができ、今後の制作の引き出しの一部となり、貴重な経験となりました。

Scienceかごしま

生物部 小野 心美

かごしま総文祭までの道のりは長いものでしたが、「カテキンおよびその類縁体と抗生物質」をテーマに研究を進展させ、私たちが大きく成長する機会となりました。論文やスライドは、先行研究との相違点、考察が効果的に伝わるよう、班員や顧問の先生と議論を重ねてまとめました。当日は緊張しましたが、満足のいく発表ができ、他県の発表に刺激を受け、Scienceの楽しさに触れることができました。奨励賞も受賞できうれしい思いでいっぱいです。今後も研究の発展を目指して実験に励みます。



全国の弁士から刺激

かごしま総文祭弁論部門出場

畠中 蒼



第1回秋田県高校弁論大会で最優秀賞を受賞し、秋田県から初めての出場者として参加しました。先生に誘われたことが参加のきっかけでしたが、内容を考え、文章を練り直し、練習を重ねるうちに、「恥ずかしいけど自分の気持ちを思い切り伝えたい」と思うようになりました。本番では、応援してくれた友達や親、一緒に練習してくださった先生方に感謝しながら今までで一番の発表ができました。全国の弁士たちは、自分とは一味も二味も違う考え方を持っていて、とても刺激を受けました。最高の経験をした忘れられない夏になりました！